<2013.3.28 厚労委質疑>

すが、HPV16型の感染の割合は〇・五%、18型は〇・二%という報告が、日本の研究者が海外の医学系雑誌に投稿したものの中にございます。

〇委員以外の議員（はたともこ君）　昨日の厚生労働省の説明では、日本人の細胞診正常女性、つまり一般女性でHPV18型が検出される人の割合は〇・五%ということでしたが、事実ですか。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　御指摘のとおりでございます。

〇委員以外の議員（はたともこ君）　HPVに感染しても、九〇%以上は自然排出されるということでよろしいですか。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　済みません。今、確認していたので、聞き逃してしまい、もう一度お願いします。済みません。

〇委員以外の議員（はたともこ君）　HPVに感染しても、九〇%以上は自然排出されるということでよろしいですか。 ①

〇政府参考人（矢島鉄也君）　御指摘のとおりでございまして、これは米国における三年間にわたる調査でのデータでございますけれども、九〇%が二年以内に検出されなくなったという報告がされております。

〇委員以外の議員（はたともこ君）　HPVに持続感染し、前がん病変の軽度、中等度、高度異形成を経て子宮頸がんになる人の割合は、昨日、厚生労働省から〇・一から〇・五%だという説明を受けましたが、それでよろしいですか。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　ヒトパピローマウイルスの持続感染に至った者のうち子宮頸がんに至る割合については、様々な試算があります。そのため、子宮頸がんの前がん病変の段階で治療がなされる場合がある等の理由によりまして、確立した数値というものが、御説明のときにはあったかもしれませんが、我々、公式に出すものについては確立した数値は得られていないというふうに理解をしております。

〇委員以外の議員（はたともこ君）　HPVに感染しても九〇%以上が自然排出する。残りの一〇%のうち、持続感染し、前がん病変の初期段階である軽度異形成になったとしても、そのうちの九〇%は自然治癒するということでよろしいですか。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　今の御指摘の数値は、イギリスの医学雑誌ランセットによる二〇〇四年の十一月のデータによりますと、若い女性の軽度異形成の九〇%が三年以内に消失するという報告がございます。 ②

〇委員以外の議員（はたともこ君）　軽度異形成の段階では経過観察を行い、中等度、高度への進展の段階で治療をすれば大部分は治癒するということでよろしいですか。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　その程度にもよるんですけれども、予防接種部会のワクチン評価に関する小委員会のチームの報告によりますと、先ほど、CIN2と呼ばれる中等度異形成に関しましては、経過観察を見る場合ですとか冷凍凝固術ですとかレーザー蒸散法によります治療が行われることがあります。そういうふうな場合については一定の見解がなされていませんが、その後の、中等度異形成の後、CIN3の段階になりますけれども、高度異形成ですとか上皮内がんに相当する段階では病変部を取り除く子宮頸部円錐切除術が行われまして、これの適切な治療が行われた場合には治癒率はおおむね一〇〇%であるというふうに日本産婦人科腫瘍学会のガイドラインでは示されております。 ③

〇委員以外の議員（はたともこ君）　お手元の資料は、厚生労働省から提供された本年三月十一日、厚生労働省開催の副反応検討会資料を基に作成したものです。

一般にはHPVワクチンの副反応の頻度はインフルエンザワクチンの十倍と言われていますが、それは事実ではなく、実際には、インフルエンザワクチンのサーバリックスが三十八倍、ガーダシルが二十六倍、そのうち重篤な副反応は、インフルエンザワクチンのサーバリックスが五十二倍、ガーダシルが二十四倍ということでよろしいですね。

〇政府参考人（矢島鉄也君）　今の倍率につきましては、いろいろと対象年齢が異なることからその報告率に違いが生じておりますけれども、三月十一日に開催しました副反